

山本かずひと



令和4年度の決算が認定。



9月5日から始まりました定例区議会も10月13日に閉幕を致しました。10月に入ってから、令和4年度の文京区一般会計及び3つの特別会計の集中審議が連日開催され、我が会派を含む賛成多数で全会計決算が認定されました。そして、現在は今年最後の定例区議会が開催されております。令和4年度の一般会計決算の総額は、歳入が138,086,308,937円で対前年度比2,5%の増、歳出が132,304,819,352円で対前年度比4,9%の増となりました。差額の余剰金は、法律により半分が財政調整基金に入れられ、残りが一般財源として活用されることとなります。

※写真は、明治大学マンドリンOB倶楽部の定期演奏会です。今年は4年振りに文京シビックホールで開催されました。

令和4年度における主要施策の概要（全文）

令和4年度の予算編成においては、法人住民税の一部国税化やふるさと納税等の不合理な税制改正によって税財源の多額の流出が懸念される中、新型コロナウイルス感染症の影響による景気の不透明性を踏まえると予断を許さない状況にありました。こうした中、文の京総合戦略に掲げる主要課題の解決等に邁進するため、既存の分野や領域を超えた柔軟な発想と効率的・効果的で質の高いサービスを提供するための予算編成を行いました。また、様々な社会変革に適用しつつコロナ禍における地域経済の復興を図ると共に、原油価格・物価高騰への対応を始め喫緊の区政課題に迅速且つ着実に取り組みました。

「子どもたちに輝く未来をつなぐ」為の施策では、ベビーシッター等による子育て支援事業を充実させ、多様な保育サービス等の提供を推進しました。また、事業者による物件提案型の育成室整備や多様な放課後の居場所づくりを進めました。

「健康で安心な生活基盤の整備」の施策では、文京くすのきの郷の大規模改修工事を始め、認知症検診等事業においては新たにPFS（成果連動型民間委託契約方式）を導入し、成果指標や実績に連動した段階的な報酬額を設定し、民間事業者独自の取組を促進しました。

「活力と魅力あふれるまちの創造」の施策では、リカレント教育やリスキングによる人材育成への取組に対し経費の一部を補助し、中小企業の人材確保を支援すると共に、区民参加型の観光土産品開発事業として「花咲菓石けん～文京花の五大まつり～」を商品化し、観光産業及び地域活力の復興に取り組みました。

「文化的で豊かな共生社会の実現」の施策では、小石川図書館の改築にあたり、竹早公園との一体的整備に関する基本計画の策定に着手しました。

「環境の保全と快適で安全なまちづくり」では、現下の経済情勢に鑑み、原油価格や物価高騰に対応する事業として、保育施設等への給食費や光熱費に係わる費用の補助や、区独自の支援策として子育て世帯応援特別給付金等、影響を受ける区民や事業者への支援を行いました。

こうして、4年度の予算執行においては、長期化するコロナ禍における社会経済情勢の著しい変化に的確に対応しながら、限られた財政資源の中で様々な行政サービスの提供に努めました。この結果、4年度の一般会計は、132,304,819,352円の歳出予算を執行しました。